

教育目標	
心身ともに健やかで たくましく 未来へつながる子どもの育成	
年度末の最終評価	
自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月中旬	保護者・学校運営協議会・教職員
最終評価	3月初旬	保護者・学校運営協議会・教職員

（１）幼稚園教育（保育の改善・充実）について

<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「安心・安定」した園生活の中で健やかに過ごし、自己発揮や協同性、自己抑制を育むための環境構成、学年や個々の発達に応じた教師の援助を考え、幼児期に育てたい資質・能力を意識した教育課程の作成・見直しを図る。 ・感動体験につながる園外保育や栽培活動・地域の方との関わりを大事にするとともに、遊びや生活との連続性をもった保育実践をする。 ・幼稚園きょうだいを意図的につくり、年間を通して異年齢児が関わる機会を設定し、憧れや思いやりの気持ちが育つようにする。 ・未就園児とのつながりがもてる機会を設定する。 ・若年・ベテラン教員の良さを生かした保育の質向上を願い、互いの保育を学び合う。自然との関わり、絵本やリズム遊び、運動的な遊び、造形活動など体験を通して行う保育を子どもとともに創り、主体的に自己発揮や自己抑制できる環境や教師の援助を見直す。
<p>（取組結果を検証する）各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述 ・アンケート項目 <ol style="list-style-type: none"> ① 「幼稚園を楽しんでいる」と感じている ② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」 ③ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」 ④ 「体を動かして遊ぶことが好きである」 ⑤ 「身近な動植物や栽培に興味・関心をもち、大切にしようとしている」 ⑥ 「手洗い・うがいや持ち物の始末、身の回りのことを自分でしようとしている」

- ⑦ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」
 ⑧ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」
 ⑨ 「キンダーカウンセラーが配置され、相談してみようと思う」

中間評価

各種指標結果

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
- ・アンケート項目

① 「幼稚園を楽しいと感じている」	A 79 %・B 21 %
② 「友達や先生と関わることを楽しんでいる」	A 84 %・B 16 %
③ 「体を動かして遊ぶことが好きである」	A 82 %・B 18 %
④ 「言葉や表情、しぐさで自分の思いを伝えようとしている」	A 86 %・B 13 %
⑤ 「栽培や動植物に興味・関心をもち、大切にしようとしている」	A 66 %・B 34 %
⑥ 「人との触れ合いの中で相手の話を聞いたり思いを感じたりしようとしている」	A 48 %・B 39 %
⑦ 「家庭では手洗い・うがいや持ち物の始末、身の回りのことを自分でできるようにしている」	A 54 %・B 43 %
⑧ 「家庭では早寝早起き朝ごはんなど一日を気持ちよくスタートできるようにしている」	A 84 %・B 16 %
⑨ 「教職員は一人一人の子どもを大切にし、温かい関わりをしている」	A 58 %・B 40 %
⑩ 「園の教育方針や子どもの遊びや生活の様子が伝わっている」	A 29 %・B 29 %
⑪ 「キンダーカウンセラーが配置され、相談してみようと思う」	

自己評価

分析（成果と課題）

- ・昨年度、主体的・対話的で深い学びの実践研究をしてきたことから、教師の援助、環境構成の見直し等が活かされてきている。また、教諭同士が互いに子どもの育ちや課題を共有し、一人一人の子どもの実態を全教員で把握し、関わることで子どもの成長につながっている。
- ・キンダーカウンセラーの訪問を活かすことで、乳幼児の発達や心理的な面から専門家の意見を聞き、教員の学びにつながっている。保護者への啓発をもう少ししていきたい。
- ・自然物との関わりでは、年長児が種からの栽培物を育て、花の苗屋さんを開き、地域や保護者に苗をもらってもらう取組をした。収穫や開花に触れ、自然物への興味関心が育ったと考えている。地域とのつながりを広げる機会となった。
- ・⑦については、保護者自身にも基本的な生活習慣の確立が子どもたちに自信と自立心を育み、自己発揮する姿につながることを引き続き伝えてきた。今後も家庭と連携していきたい。
- ・⑩に関しては、理解していただけると今一度努力する必要性がある。

分析を踏まえた取組の改善

- ・教職員が互いの学年の実態を把握し、共通理解を深めることで、教師の援助の温かさ、保育環境の工夫などが進んだと考える。基本的生活習慣の自立では課題もあるが、園内での人との関わりで子どもたちの心の安定や意欲が育ち、自信につながってきている。今後も家庭との連携を深め、より保育の質向上をめざしていきたい。
- ・京都教育大学主催の協働研修公開保育で、主体的な遊びや活動の援助、好奇心を育む環境構成、人とのコミュニケーションや言葉の援助などに着目し、保育の質向上を目指していきたい。
- ・子どもが主体的に遊び、充実感や達成感を味わえる保育をめざしている。互いの保育を見直し、十分に検討し合っている。互いの保育の迷いにも教員みんなで話し合い、意見交換することができている。今後も教職員で協力し合いたい。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・子どもの姿の変容、研究保育、事例検討、週案の反省・記録・評価の記述
- ・アンケート項目

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

今年久しぶりに全学年の運動会を見たが、やはり全員でにぎやかな運動会はよかった。また、幼稚園にも時々来て子どもたちの様子を見たい。

先生たちがそれまでの保育の経過を話されるのも、いつも感心している。

創立 130 周年記念と

いうことで工夫が感じられた。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 幼保小の架け橋プログラムの推進に関して

具体的な取組 <ul style="list-style-type: none"> ・隣接する小学校や近隣の就学前施設と、就学前、就学後の連絡会・保育・授業参観・幼小中合同研修・作品展見学などを通して互いの教育への理解を深める。『幼保小の架け橋プログラム』の実現とともに幼児教育の質を高めていく ・健やかな心や体を持ち、夢中になって遊び込む保育を子どもとともに創るための教師の援助や環境構成を考える。「自ら学ぶ力」「自ら律する力」を育てる保育を推進し、小学校へとつなげる。 ・「親子で絵本！」のノートを活用しながら、絵本や物語に親しみ、創造する楽しさを味わうなど、言葉や文字、数量に対する感覚の基礎を培う。 	
(取組結果を検証する) 各種指標 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作成・見直し ・『幼保小の架け橋プログラム』の実践を活かした5歳児教育課程の見直し ・保育園、小学校との接続、施設利用状況、公開保育の事前事後研修の実施 ・「親子で絵本！」の活用状況 ・アンケート項目 <p>① 「近隣の就学前施設、小学校、中学校とのつながりを大切にしている」</p> <p>② 「子どもは絵本を見ることが好きである」</p>	

中間評価

各種指標結果 <ul style="list-style-type: none"> ・幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の見直しを引き続き行う。 ・『幼保小の架け橋プログラム』の実践を活かした5歳児教育課程の見直しを引き続き行う。 ・保育園、小学校との接続、施設利用状況、公開保育の事前事後研修の実施は昨年より進んでいる。 ・「親子で絵本！」の活用状況 幼稚園として課題を感じている。 ・アンケート項目 <p>① 「近隣の就学前施設、小学校、中学校とのつながりを大切にしている」 A 80 % ・ B 20 %</p> <p>② 「親子で絵本を見る時間を大切にしている」 A 30 % ・ B 63 %</p>	
自己評価	分析 (成果と課題) <ul style="list-style-type: none"> ・隣接の小学校や近隣保育園との架け橋プログラムの取組が進んできている。幼稚園のウェルカムデー (参観)、年長児の苗屋さんなど、小学校の1年生や教職員、地域の方がお客さんとなって来てもらう機会を引き続きもつことができた。1学期に1年生の音楽の授業で交流をしたり、夏の遊びを幼稚園の園庭で一緒にしたりと小学校への親しみを子どもたちはもっている。保育園を含めた交流も昨年より実現しており、事前事後の研修なども時間を取れるようになっている。今後は引き継いでいけるカリキュラム作成について、考えていきたい。 ・事後の話し合いをもとに、幼児期の終わりまでに育てたい10の姿を意識した教育課程の作

	<p>成・見直しが必要である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校との交流や施設利用状況 → ウェルカムデー（参観）の実施、校庭や授業の参加、プールの利用、運動会参観・1年生や地域保育園との交流、事後研修の内容をより深めていく。 ・「親子で絵本！」の活用状況 → 目指せ100冊の達成状況（個人差がある）では、幼児期に親子で絵本を読む時間をもてるように声かけしていきたい。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学校、保育園とは架け橋期を意識した取組が進み、教職員同士の関わりも進んできているが、地域の幼児教育施設と幼児教育の質を共に向上していけるように研修も考えていきたい。 ・親子で絵本を読む時間が少ないことを危惧している。親子で絵本に親しむことは、心を豊かにし、想像力や感性を培い、小学校以降の読む・聞く・理解する・書く力につながっていくことを、機会を設けて伝えている。お家の人に読んでもらうことで親子のつながりが深まり、創造の世界も広がり、心が育つことを伝えていきたい。
	<p>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・連携のエピソード作成 ・前期との比較、検討を行なうことで取組の改善を検討 ・『親子で絵本』の活用度 ・教職員同士の合同研修会の実施 ・アンケート項目 <p>① 「幼稚園は保育園・小学校・中学校・家庭や地域とのつながりを大切にしている」</p> <p>「親子で絵本を読む時間を大切にし、興味が広がってきている」</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>幼保小の架け橋プログラムで取り組んでもらってきたことが、入学後の不安感を減らすことにつながり、本当に大事な取組だと感じる。入学を楽しみに迎えることができた。</p>

最終評価

	（中間評価時に設定した）各種指標結果
自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <p>分析を踏まえた取組の改善</p>
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

（３）預かり保育に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育指導計画の作成、実践、見直しをし、預かり保育における遊びの多様性を図る。 ・園生活が充実し、無理なく過ごせるように、興味ある遊びを実現できる環境づくりや支援をする。 ・特に早朝や18時までの預かり保育では、温かい声かけを心がけ、保護者との連携を深める。担任や教職員が緊密な連携を取る。 ・満3歳児の預かり保育も始まる中、安全性を考慮し、人員確保や環境の見直しなど、全教職員で取り組み、信頼できる幼稚園をめざす。

<div>（取組結果を検証する）各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど） ・ アンケート項目から <div>「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</div>

中間評価

	<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 預かり保育の参加人数・預かり保育をする中での子どもの育ち（異年齢のかかわりなど） ・ アンケート項目から <div>「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</div> <div>A 95% ・ B 5 %</div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就労する保護者の増加とともに、預かり保育の参加人数は増えている。安心してありのままの思いを出し、異年齢での子ども同士の関わりが見られる良さもある。年長児が年少児に優しく声をかける場面も多い。しかし、今年の夏休みは酷暑で幼い子どもには厳しかったが、教職員の努力で乗り切ることができた。ゆっくり保護者と過ごすことも幼児期には大切であるが、可能な範囲で地域の子育て家庭の支援をしていけるように考えている。 <div>分析を踏まえた取組の改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者の就労やゆとりの時間への意識が高まり、働きながらも幼稚園に在園できることが定着しつつある。個々の発達の違いもあり、園全体でサポートしていく必要がある。 ・ 担任と預かり保育担当者との連携により、保育と預かり保育が連動していくことの大切さを感じる。 ・ 新しい遊具や遊び方、内容を見直し、家庭的な雰囲気の中でも変化をつけて子どもにとって新鮮で楽しい時間になるように工夫する。 ・ 担当の教員と担任、保護者が連携を取りながら、子どもの思いに寄り添い、子どもが安心して過ごせる場づくりをしていく。 <div>（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標</div> <div>「にっこり広場（預かり保育）に喜んで参加している」</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>地域の乳幼児が少なくなっているが、働く保護者が増えて幼稚園の預かり保育利用者が増えている。私たちが子育てをしてきた頃とはちがってきたことを感じる。先生方は大変だと思う。</p>

最終評価

	<div>（中間評価時に設定した）各種指標結果</div>
自己評価	<div>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</div> <div>分析を踏まえた取組の改善</div>
学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div>

価	
---	--

(4) 子育ての支援に関して

具体的な取組	
<ul style="list-style-type: none"> ・未就園児ぷちたんぽぽ組（2歳児親子、満3歳児）の取組を充実させ、引き続き乳児から幼児への発達に応じた遊びや場を提供する（預かり保育）。 ・子育ての楽しさを共有したり、乳幼児期の発達を知る機会にしたりする ・園庭開放を設け、心と体を解放して遊ぶ場を提供する。 ・在園児保護者と未就園児保護者が子育てについて語り合える場（説明会）を提供する。 ・ほっこり子育て広場の取組として、誕生会の後、保護者と園長との懇談の場を設ける。 ・社会福祉協議会「福ちゃん組」及び地域子育てステーション事業における連携をする。 ・地域の幼児教育の場として、幼児期に育てたい力、保護者の役割について発信できるようにする 	
(取組結果を検証する) 各種指標	
<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業への発信 	

中間評価

<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）参加人数 こっこ組 20 人・ぷちたんぽぽ組 10 人 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 子育ての悩みを共有する場となる。 ・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業への発信小規模保育園とのつながりも見られる。 	
自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・0～1歳児、2歳児親子の組は登録数が昨年度に比べて減っているが、2歳児親子の誕生会を在園児と同じ誕生会に招待したり運動会を一緒にしたりすることで仲間意識が育っている ・未就園児保護者が教育相談を利用しながら、在園児の遊びや生活の様子を垣間見て、幼児の発達を知ったり、教職員の雰囲気を感じ取ったりすることができ、利用している親子にとっては、人と関わる場になっている。また、ぷちたんぽぽ組は2歳児親子の取組であるが、同じ学年の親子が集うので、親子共に知り合いになりやすく、親子共に安心感につながっている。 ・おひさまタイム（子育て語り合い）を行うことができ、在園児保護者同士が話す機会が増えて、今後、学年を越えた保護者のつながりが持てるようになってほしい。 ・在園児も愛らしい乳児の姿に親しみ、自分の成長を感じ、小さい子を思いやる気持ちで関わっている。
	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・ぷちたんぽぽ組（2～満3歳児）の取組を今後進歩させたいので、子どもはもちろん、保護者同士の触れ合い、つながりを持つ機会になることを、より外部へとアピールしていく。触れ合いの場を増やし、園児の一員として全教職員で関わっていく。 ・幼児教育施設が子どもを育てる幼児教育の専門家として誇りをもてるように小規模保育園とも連携していきたい。今年度は小規模保育園の子どもたちが遊びに来てくれる機会もあり、今後も
	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標
	<ul style="list-style-type: none"> ・子育て支援の取組（こっこ組、ぷちたんぽぽ組）の参加人数 ・おひさまタイム（子育て語り合い）での話し合いの様子 ・未就園児保護者の話の内容から・小規模保育事業との交流

学校関係者評価	<div>学校関係者による意見・支援策</div> <p>未就園児の取組の人数は減っているが、社会福祉協議会の取組でも乳幼児と保護者の参加が減っている。子育てしやすい町になってほしい。</p>
---------	--

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

<div>具体的な取組</div> <ul style="list-style-type: none"> ・「金札宮のこどもみこし」や「板橋祭」等、地域の伝統的な文化や行事への参加 ・花の苗屋さんへのご招待 ・豆ごはんやカレーパーティーの買い物体験 ・女性会によるお茶会体験や、地域の方との触れ合い交流（年長児） ・幼中連携における中学生との交流 ・学校運営協議会を中心とし、幼児教育への理解、相談、協力を得られるようにする。
<div>(取組結果を検証する) 各種指標</div> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や内容 ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 ・アンケート項目 <p>「地域とのかかわりを大切にしている」</p>

中間評価

<div>各種指標結果</div> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や内容 金札宮の子供神輿参加・板橋祭参加・お茶会への協力など ・子どもの姿や保護者・地域の方の声 花の苗屋さんを楽しみにして下さり、花が咲いたことを知らせてくださる方もある。子どもたちも自分たちのしたことが人の喜びになっていることを感じる事ができている。 ・アンケート項目 <p style="text-align: center;">A 80 % ・ B 20%</p> <p>「地域とのかかわりを大切にしている」</p>	
自己評価	<div>分析（成果と課題）</div> <ul style="list-style-type: none"> ・5月の「金札宮こどもみこし」に希望者が参加、「板橋祭」にPTAや子どもたちが参加するなど、地域との関わりがあり、地域に親しみを感じられるようになっている。また、保育の中では、豆ごはんやカレーづくりの材料を年長児が地域に出て買い物をする、図書館へ訪問する、年長児が育てた植物を花の苗屋さんの実施で地域の方が足を運んでくださる、育った植物の生長を伝えてくださる、小さなことの積み重ねを大事にしてきた。子どもたちが伏見の町を【ふるさと】と

	<p>親しみが持てるようにしていきたい 今年度は創立 130 周年記念、より地域とのつながりを大切にし、子どもたちに伝えていきたい。</p>
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史ある幼稚園を残していきたい気持ちも強く、変えていくべきこと、残していくべきことを見極め、地域の活性化の一端となれるように地域と共に歩んでいきたい。 ・今年度もさまざまな地域の行事が元に戻り、運動会にも地域の方々にお越しいただき、子どもたちの成長を身近に感じていただくことができた。これからも、幼稚園の取組や子どもの姿を知って頂く機会を設け具体的に伝えていきたい。 ・預かり保育の時間を利用して、学校運営協議会の方に絵本の読み聞かせや手遊びを行っていたき、直接子どもたちとかかわる機会や保育参観などに来ていただく。
	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・交流の回数や内容 ・こどもの姿や保護者・地域の方の声 <p>アンケート項目「地域との関わりを大切にしている」</p>
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <p>創立 130 周年記念のことについて、実施内容の報告とご協力をお願いをし、卒園生である理事の方から現在の園舎になった話を聞かせていただく。</p>

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	
自己評価	分析 (成果と課題)、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(6) 教職員の働き方改革について

重点目標
○ウェルビーイングを目指し、「働きやすさ」「働きがい」を進め、より一層の保育の質向上を図る。
具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・毎週水曜日ノー残業デーとする。・朝職員会議を週 1 回にし、常に報告、連絡、相談を大事にする。 ・土日、祝日及び、緊急の場合を除き、平日の 18 時以降の電話対応は控える。 ・教職員同士のコミュニケーションを大事にし、互いの思いを共有し、支え合えるようにする。 ・預かり保育実施により、時間外勤務が増えることがないように全教職員が意識する。 ・働き方改革に関する話し合いや研修を行う。 ・園内 OJT を通じて、若手教員を支援する体制を整える (キンダーカウンセラー配置)。

〔取組結果を検証する〕各種指標	
①	「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」
②	「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」
③	「対話を大切にした若手教員に対する園内研修の実施など」

中間評価

各種指標結果	
①	「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」
②	「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」
③	「対話を大切にした若手教員に対する園内研修の実施など」
自己評価	分析（成果と課題） <ul style="list-style-type: none"> ・職員会の回数を削減、行事内容やもち方の見直し、アプリ導入により事務の効率化を図ることはできているが、一部の教職員に負担とならないようにしていきたい。非常勤講師、校務支援員や学び支援員、総合育成支援員の配置で教職員の保育負担は軽減されているが、常に互いが声を掛け合い、サポートする体制を大事にしたい。 ・時間外勤務を控えようとする意識が常にもてるよう、教職員に優先順位を考えて業務を進められるように声をかけていく。 ・朝の会議を週1回にしたことで、報告連絡を欠かさないようにする意識につながっている。 ・水曜日のノー残業デーは、実行できず、課題である。 ・若手が活躍できる業務もあり、全教職員互いに得意分野で支え合おうという意識、子育て世代を園全体でサポートする意識を今後ももっていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善 <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、行事内容やもち方の見直しを図る。 ・検討事項の精選や事前事後伝達、時間を決めるなどし、会議時間の短縮と効率化を図る。 ・担任業務の繁忙を校務支援員に協力してもらうことで、分散化することができるよう今後もしていく。しかし、担任としての必要な業務は責任を持っていく。
	〔最終評価に向けた〕取組の改善を検証する各種指標 <p>「出退勤管理システムによる客観的な出退勤時間の記録を通して勤務時間を意識している」</p> <p>「日々の保育で健全に子どもたちと向き合う時間が確保できている」</p> <p>「教職員の年休取得状況」</p>
	学校関係者による意見・支援策 <p>いろいろな行事など大変だろうが、協力できることは言ってもらったらよい。子どもたちのためにがんばってほしい。</p>

最終評価

〔中間評価時に設定した〕各種指標結果	
自己評価	分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題
	分析を踏まえた取組の改善

学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策
---------	----------------